

## ■ 概況

3/3~3/9のNYMEX・WTI先物市場は、107.67~123.70ドルの範囲で推移した。

3月10日は、欧米の経済制裁に関し、ブーテン大統領は、ロシアはエネルギー供給契約を誠実に果たしていると発言、対抗措置としてのエネルギーの輸出禁止はないと理解され、安心感が広がったことで、続落した。また、ユーロ安・ドル高の進行に伴う割高感も売り要因となった。4月限の終値は前日比2.68ドル安の106.02ドル。

週末11日は、バイデン大統領がこの日の演説で、対口経済制裁の強化に言及、さらに、イラン核合意再建に関する米国・イランの間接協議が先送りされたとの報道で、イラン原油の輸出再開が先送りされたとの観測で、需給ひっ迫感が高まり、3営業日ぶりに反発した。また、ペーカー・ヒューズ社発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比7基増の526基で2週連続の増加。4月限の終値は前日比3.31ドル高の109.33ドル。

週明け14日は、ロシア・ウクライナの第4回停戦交渉がオンラインで行われ、協議は15日に持ち越されたものの、双方から前向き発言があり、停戦への期待が膨らんだこと、さらに、中国広東省で、コロナの再感染が発生し、一部でロックダウンが行われたため、中国における石油需要減少が懸念されたことから、反落した。4月限の終値は前営業日比6.32ドル安の103.01ドル。

15日は、引き続き、ロシア・ウクライナの停戦交渉への期待や中国の感染再拡大への懸念から続落し、終値ベースで、2月28日以来約2週間ぶりに100ドルの台を割り込んだ。4月限の終値は前日比6.57ドル安の96.44ドル。

16日は、米国原油在庫は市場予想を上回る積み増しが報告され、米国の石油需給のひっ迫感が薄らいだこと、さらに、連保準備制度理事会(FRB)で本年7回の利上げ方針が決まり、景気の減速懸念が広がったことことから、3日続落した。4月限の終値は、前日比1.40ドル安の95.04ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、3月3日~9日の間、109.10~128.80ドルの範囲で推移した。3月10日111.60ドル、11日106.80ドル、14日108.30ドル、15日100.50ドル、16日101.70ドルで推移した。

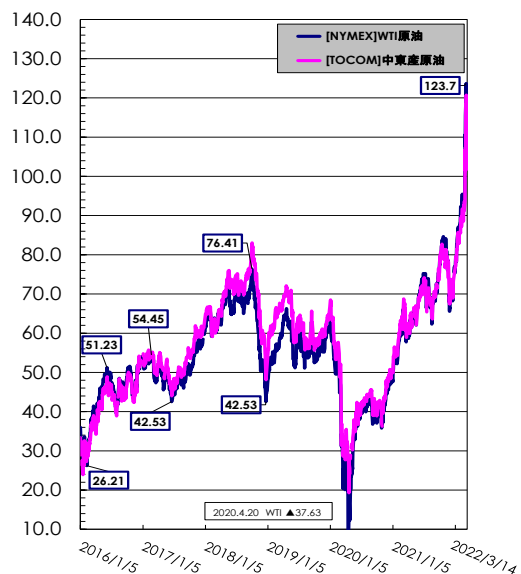
為替は、3月3日~9日の間、115.02~115.89円の範囲で推移した。3月10日116.01円、11日116.32円、14日117.61円、15日118.25円、16日118.40円で推移した。

財務省が3月16日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、63,765円/klで、前旬比249円安、ドル建て87.85ドルで前旬比0.74ドル安、為替レートは1ドル/115.40円。また、同日発表の2月の原油輸入平均CIF価格は、62,611円/klで、前月比5,038円高、ドル建て86.69ドルで前月比7.05ドル高、為替レートは1ドル/114.83円。

そのような中で、3月14日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値上がり、軽油は同0.7円の値上がり、灯油は11円の値上がり(18%ベース)であった。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油も10週連続の値上がり、灯油も10週連続の値上がりとなった。ガソリンの全国平均価格は175.2円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は上限の25.0円。

| 原油 |                       | 今週         | 前週比            | 前年比     |
|----|-----------------------|------------|----------------|---------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl)           | 3/6 ~ 3/12 | 3,083 ▲33      | ▲ -     |
|    | トッパー稼働率 (%)           | "          | 80.1 ▲0.8      | ▲ -     |
|    | 原油在庫量 (千kl)           | 3/12       | 9,750 ▲414     | ▼ -     |
| 価格 | 中東産原油(TOCOM) (\$/bbl) | 3/14       | 102.62 ▼-15.61 | ▲35.0   |
|    | WTI原油(NYMEX) (\$/bbl) | 3/14       | 103.01 ▼-16.39 | ▲37.6   |
|    | 原油CIF単価 (\$/bbl)      | 2月下旬       | 87.85 ▼-0.74   | ▲31.99  |
|    | ①原油CIF単価 (¥/kl)       | "          | 63,765 ▼-249   | ▲27,080 |
|    | ②ドル換算レート (¥/\$)       | "          | 115.40 ▼-0.52  | ▼-10.99 |
|    | 外国為替TTSレート (¥/\$)     | 3/14       | 118.61 ▼-2.59  | ▼-8.55  |

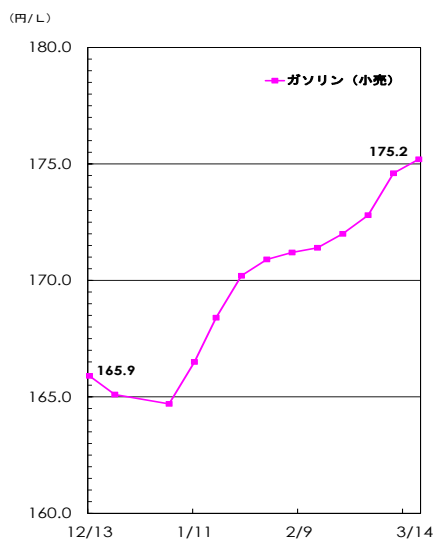
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン |                            | 今週          | 前週比         | 前年比        |        |
|------|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給   | 生産                         | 3/6 ~ 3/12  | 909 ▼ -15   | ▲ -        |        |
|      | 輸入                         | "           | n.a.        | n.a.       |        |
|      | 出荷                         | "           | 733 ▼ -39   | ▼ -        |        |
|      | 輸出                         | "           | 166 ▼ -11   | ▲ -        |        |
|      | 在庫                         | 3/12        | 1,645 ▲ 9   | ▼ -        |        |
| 価格   | 業転 [陸上ローリー<br>4地区平均] (RIM) | 3/8 ~ 3/14  | 82.0 ▼ -0.1 | ▲ 22.6     |        |
|      | 先物 [期近物/終値]                | (TOCOM/東京湾) | 3/8 ~ 3/14  | 87.2 ▲ 3.6 | ▲ 28.3 |
|      |                            | (TOCOM/中部)  | 3/14        | 85.0 ➡ 0.0 | ▲ 24.5 |
|      | 小売 [週動向] (資工庁公表)           | 3/14        | 175.2 ▲ 0.6 | ▲ 27.9     |        |

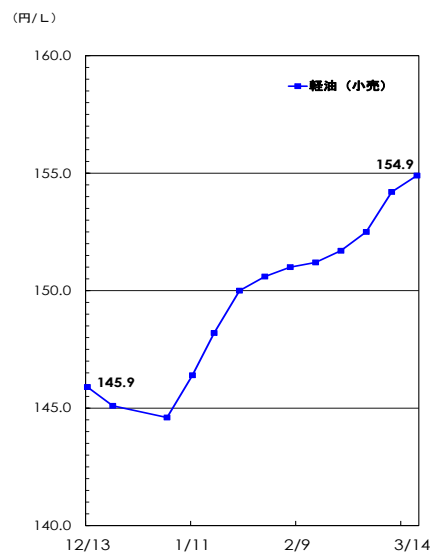
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

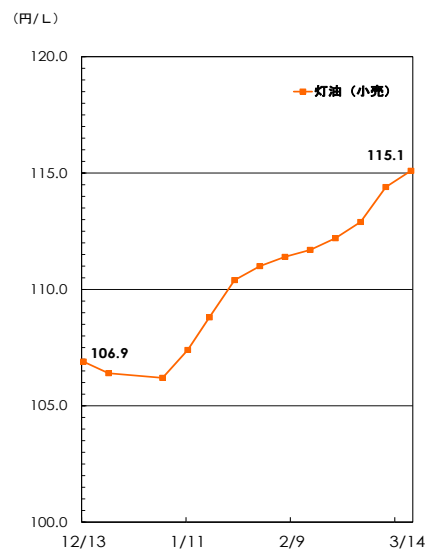
| 軽油 |                            | 今週          | 前週比          | 前年比        |        |
|----|----------------------------|-------------|--------------|------------|--------|
| 需給 | 生産                         | 3/6 ~ 3/12  | 738 ▼ -39    | ▲ -        |        |
|    | 輸入                         | "           | n.a.         | n.a.       |        |
|    | 出荷                         | "           | 675 ▼ -25    | ▲ -        |        |
|    | 輸出                         | "           | 173 ▲ 7      | ▲ -        |        |
|    | 在庫                         | 3/12        | 1,246 ▼ -110 | ▼ -        |        |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー<br>4地区平均] (RIM) | 3/8 ~ 3/14  | 83.1 ▼ -0.5  | ▲ 21.7     |        |
|    | 先物 [期近物/終値]                | (TOCOM/東京湾) | 3/8 ~ 3/14   | 91.8 ▲ 2.6 | ▲ 29.6 |
|    |                            | (TOCOM/中部)  | 3/14         | -          | -      |
|    | 小売 [週動向] (資工庁公表)           | 3/14        | 154.9 ▲ 0.7  | ▲ 27.4     |        |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 |                            | 今週          | 前週比         | 前年比        |        |
|----|----------------------------|-------------|-------------|------------|--------|
| 需給 | 生産                         | 3/6 ~ 3/12  | 343 ▲ 8     | ▲ -        |        |
|    | 輸入                         | "           | n.a.        | n.a.       |        |
|    | 出荷                         | "           | 418 ▼ -56   | ▲ -        |        |
|    | 輸出                         | "           | 0 ➡ 0       | ➡ -        |        |
|    | 在庫                         | 3/12        | 1,114 ▼ -76 | ▼ -        |        |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー<br>4地区平均] (RIM) | 3/8 ~ 3/14  | 82.6 ▼ -0.6 | ▲ 21.7     |        |
|    | 先物 [期近物/終値]                | (TOCOM/東京湾) | 3/8 ~ 3/14  | 86.2 ▲ 2.9 | ▲ 27.1 |
|    |                            | (TOCOM/中部)  | 3/14        | 82.0 ➡ 0.0 | ▲ 21.0 |
|    | 小売 [週動向] (資工庁公表)           | 3/14        | 115.1 ▲ 0.7 | ▲ 26.2     |        |



■ 関連情報

1 海外/原油

3月16日のNYMEX先物原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末時点の米国の石油在庫週報が、原油在庫が430万バレル増と市場予想(140万バレル)を上回る積み増しが報告され、米国の需給ひっ迫感が和らぎ売りがかさんだ。ただ、ガソリン在庫は360万バレル減(市場予想:160万バレル減)、中間留分在庫は130万増(市場予:180万減)とまちまちの結果となった。さらに、米国連邦準備制度理事会(FRB)はこの日の政策決定会合で、インフレ対策として、本年3回予定の利上げを7回とすることを決定したことも、景気減速懸念から、値下がり要因となった。4月限の終値は前日比1.40ドル安の95.04ドル、5月限は1.20ドル安の93.59ドルだった。

EIAによると、3月14日時点のガソリンの小売価格は、前週比21.3セント値上がりの1ガロン4.315ドル(135.0円/ℓ)、ディーゼルは同40.1セント値上がりの5.250ドル(164.3円/ℓ)となった。ガソリンは11週連続の値上がり、ディーゼルは10週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年3月6日~3月12日に休止したトッパー能力は11.8万バレル/日で、前週に対して2.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は308.3万klと、前週に比べ3.3万kl増加。前年に対しては33.6万klの増加。トッパー稼働率は80.1%と前週に対して0.8ポイントの増加、前年に対しては8.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.6%減、ジェット/13.6%減、灯油/2.3%増、軽油/5.0%減、A重油/0.1%増、C重油/16.6%減。今週のC重油の輸入は2.6万kl(前週比5.4万kl減)。軽油の輸出は17.3万kl(前週比0.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で全油種で減少した。前年比では灯油、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は73.3万kl(対前週5.0%減)と2週連続で減少した。ジェット4.3万kl(対前週21.8%減)、灯油41.8万kl(対前週11.8%減)、軽油67.5万kl(対前週3.6%減)、A重油

23.2万kl(対前週10.4%減)、C重油25.7万kl(対前週6.5%減)。

(単位:千kl)

|        | 今週<br>(3/6 ~ 3/12) | 前週<br>(2/27 ~ 3/5) | 前週比          |
|--------|--------------------|--------------------|--------------|
| ガソリン   | 733                | 772                | ▼ -39 (-5%)  |
| ジェット燃料 | 43                 | 55                 | ▼ -12 (-22%) |
| 灯油     | 418                | 474                | ▼ -56 (-12%) |
| 軽油     | 675                | 700                | ▼ -25 (-4%)  |
| A重油    | 232                | 259                | ▼ -27 (-10%) |
| C重油    | 257                | 275                | ▼ -18 (-7%)  |
| 合計     | 2,358              | 2,535              | ▼ -177 (-7%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月12日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは164.5万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては18.1万kl少ない。

灯油は111.4万kl、前週差7.6万kl減。前年に対しては28.0万kl少ない。

軽油は124.6万kl、前週差11.0万kl減。前年に対しては17.0万kl少ない。

A重油は66.9万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては0.7万kl多い。

C重油は155.1万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては28.3万kl少ない。

(単位:千kl)

|        | 今週<br>(3/12) | 前週<br>(3/5) | 前週比            |
|--------|--------------|-------------|----------------|
| ガソリン   | 1,645        | 1,636       | ▲ 9 (1%)       |
| ジェット燃料 | 695          | 680         | ▲ 15 (2%)      |
| 灯油     | 1,114        | 1,190       | ▼ -76 (-6%)    |
| 軽油     | 1,246        | 1,356       | ▼ -110 (-8%)   |
| A重油    | 669          | 661         | ▲ 8 (1%)       |
| C重油    | 1,551        | 1,592       | ▼ -41 (-3%)    |
| 合計     | 6,920        | 7,115       | ▼ -195 (-2.7%) |

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月8日～14日の指標原油価格は前週比で大きく値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは、4.5円値上がりしたものと見られる。

格は2.8円の値下げとなった模様。

上記コストアップに加え、前週の補助金額17.7円を加えたコスト上昇額22.2円に、補助金の上限額25.0円が支給されることから、次週(3/17～3/23)の元売り会社の実質的な卸売

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月8日～14日の製品スポット市況は、3月1日～7日平均と比べ、3油種の先物取引と灯油の海上取引で値上がりしたが、その他の油種・取引で値下がりした。

直近週(3/8～3/14)の陸上スポット価格平均値は、前週(3/1～3/7)比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/8～3/14)に、前週(3/1～3/7)比で、ガソリンは0.4円の値下がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.7円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.6円の値上がり、灯油は2.9円の値上がり、軽油は2.6円の値上がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

| [陸上ローリー<br>4地区平均] | 今週 (3/8～3/14) | 前週 (3/1～3/7) | 前週比    |
|-------------------|---------------|--------------|--------|
|                   | レギュラー         | 82.0         | 82.1   |
| 灯油                | 82.6          | 83.2         | ▼ -0.6 |
| 軽油                | 83.1          | 83.6         | ▼ -0.5 |

(TOCOM) (単位: 円/%)

| [期近物/終値]<br>[平均] | 今週 (3/8～3/14) | 前週 (3/1～3/7) | 前週比   |
|------------------|---------------|--------------|-------|
|                  | レギュラー         | 87.2         | 83.6  |
| 灯油               | 86.2          | 83.3         | ▲ 2.9 |
| 軽油               | 91.8          | 89.2         | ▲ 2.6 |

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/8～3/14実績値) (単位: 円/%)

| 油種   | 現物     | 先物    | 平均    |
|------|--------|-------|-------|
| ガソリン | ▼ -0.1 | ▲ 3.6 | ▲ 1.7 |
| 灯油   | ▼ -0.6 | ▲ 2.9 | ▲ 1.1 |
| 軽油   | ▼ -0.5 | ▲ 2.6 | ▲ 1.1 |
| A重油  | ▼ -0.2 |       |       |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の175.2円、軽油は同0.7円高の154.9円、灯油は18%ベースで11円高の2,071円(1%ベースでは同0.7円高の115.1円)。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油も10週連続の値上がり、灯油も10週連続の値上がりとなった。

今回調査時(3/22)のガソリンの小売価格は、原油価格の上昇はあるものの、補助金効果によって、値下がり予想される。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは41都道府県、横ばいは1県、値下がり5県だった。全国最安値は徳島県の170.0円、その次は岡山県の170.2円であった。他方、最高値は鹿児島県の183.1円だった。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比2.3円高)で、横ばいは高知県、最も値下がりしたのは和歌山県と福井県(前週比0.8円安)だった。

(単位: 円/%)

| (資工庁公表)<br>[週動向] | 今週 (3/14) | 前週 (3/7) | 前週比   | 直近高値          |
|------------------|-----------|----------|-------|---------------|
| レギュラー            | 175.2     | 174.6    | ▲ 0.6 | 08/8/4 185.1  |
| 灯油               | 115.1     | 114.4    | ▲ 0.7 | 08/8/11 132.1 |
| 軽油               | 154.9     | 154.2    | ▲ 0.7 | 08/8/4 167.4  |

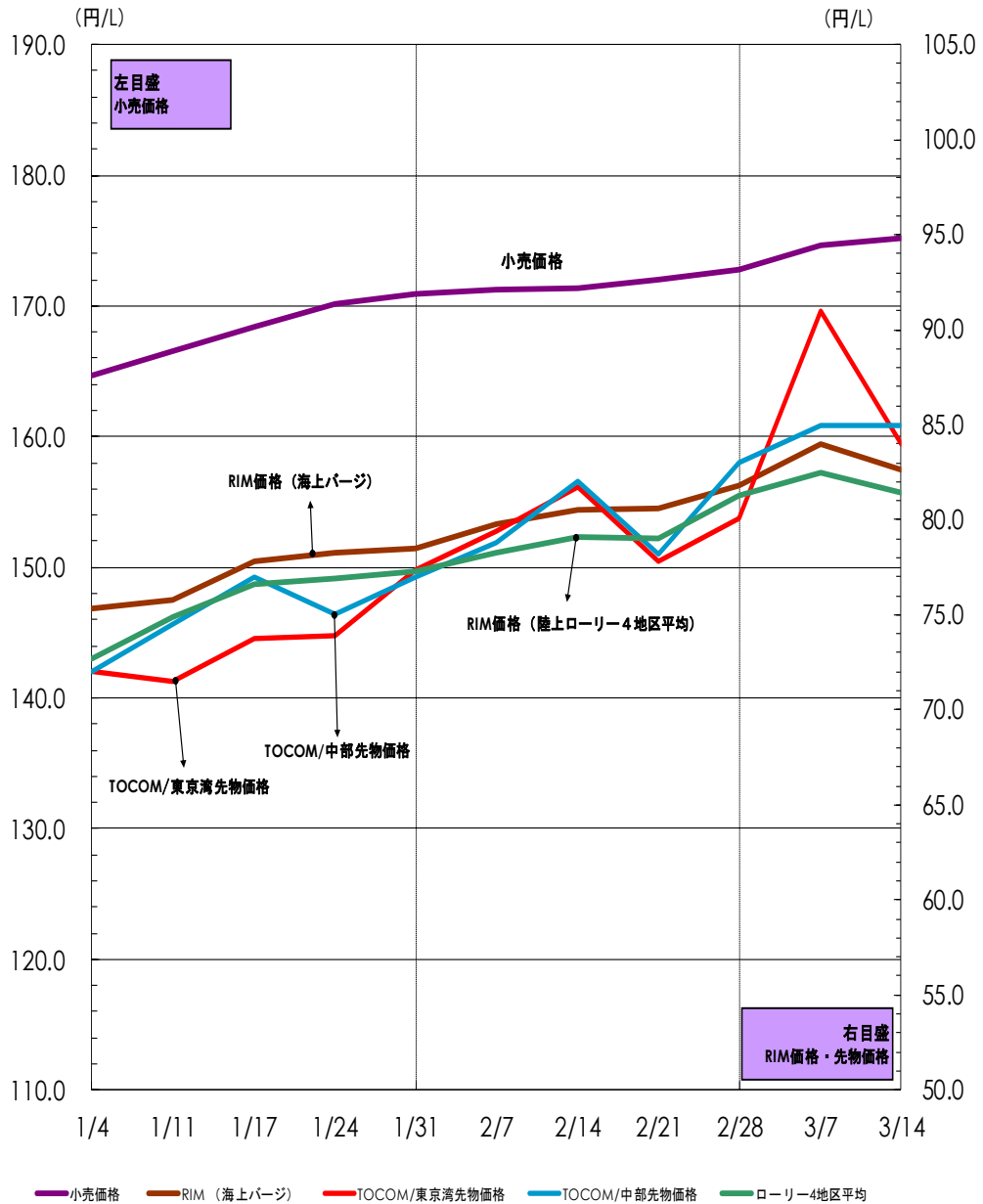
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2022/1/4 ~ 2022/3/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2021第49号)の公表は、3/25(金)14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。